第１回愛媛県新長期計画策定会議　議事概要

日時：H23.4.25　9:30～11:30
場所：県議会農林水産・建設委員会室

１．委員長選任・副委員長指名について

（1）　委員長選任
林委員が委員長に就任

（2）　副委員長指名
藍場委員を副委員長に指名

２．議事

（1）　会議の公開・非公開について
全部公開することで決定

（2）　新しい長期計画策定について

○　アンケートについて

・　県が進めてきた 81 の取組みに対する重要度・満足度について、重要度が高いが満足度が低い項目の満足度をいかに引き上げていくかを考えていくと良いのではないか。
・　震災を機に意識が変わってくる中で、県民の本当の意見を計画に出そうと思ったら、何らかの形で県民の意見を聞いていく必要性があると感じている。
・　年代別、住んでいる地域別など、属性ごとに分けて、そこから有意さが出るようなものをピックアップし、対象別にニーズを分析していく必要があるでは。
・　アンケート調査でも、県民が当事者意識を持てるような工夫ができるのでは。
・　アンケート結果は、クロス集計すべき。その中で、ピックアップしたやるべきことを基本理念に反映させてから、個別の計画へと下ろすべき。

○　人口推計・経済推計について

・　計画の目標年次である 2020 年も一つの通過点であるという視点を持つことが必要。
・　今後、30 年間は、高齢者は一貫して増加していくことが高齢化の実態であり、65 歳以上がピークを迎える 2040 年を見据えて考えていかないと方向性を間違う可能性がある。

○　基本構想骨子について

【全体的な印象】

・　長期計画の策定に当たって、大きな震災があり、今まで当然だったことが当然でなくなってきたというところを愛媛県としても取り組んでいかなければならないと思う。
・　厳しい状況の中にも、県民の方に何か光を与えられるようなものを１つでも残したい。
・　外向き志向、愛媛から世界へという構想が薄い。
・　限られた資源の中では、「４つの愛顔づくりへの挑戦」で優先順位、メリハリを付けるべき。
・　ビジョンそのものは、これで良いと思うが、大震災と福島原発に対する危機感が、愛媛県は十分じゃないという印象。
・　10 年先の話なので、少し大胆なことを言っても大丈夫だと思う。
・　長期計画は実現可能なもの、実効性のあるものであってほしい。
・　「郷土愛」が、これからの時代において、重要な価値観になると思う。

・　施策の数、経済規模、順位ではなく、田舎の良さを１０年後に残していくことが重要で、これまでとは、少し見方を変えた１０年計画が必要。
・　愛媛の持っている財産は、人、文化、豊かな自然であって、背伸びをせず、住み良い町、愛媛というのを、どうやって作るかが重要。
・　内在的な価値観だけでなく、外在的（波及的）な価値を含めて一体的な文化をどのようにつくっていくのかが一つのポイント。
・　他との比較によって、愛媛の良いところを愛媛らしさとして取り入れていけば良い。
・　「４つの愛顔づくりへの挑戦」をきちんと担保していくためには、それなりの経済的な裏づけ（産業振興）も必要。
・　震災後、今まで少し意識が行かなかった部分に意識を持ち、個人のことよりも全体のこと、社会のこと、地域のことという新しい方向が出てくるのでは。

【岐路に立つ愛媛】

・　「時代の変革期に直面する愛媛」では国際競争力（特に産業面や教育面）を強化することが求められ、「開花が期待される愛媛の潜在能力」でも国際基準の英知の育成が重要。

【基本理念】

・　多様な価値観というのを認め合えるような仕掛け作りが、基本理念の中にも必要。
・　基本理念の文章は長くて、読む人はほとんどいないと思う。
・　「愛のくに　愛顔あふれる愛媛県」に基づいた愛媛県像というのが、全くわからない。
・　基本理念は、何十年後に愛媛県が今と変わってどうなっているのかっていうようなメッセージ性を持って、もう少し具体的に出した方が良い。
・　基本理念では、行政が最低限これをするという約束みたいなものが必要。
・　基本理念内のキーワードに向けて、誰が何をするかというイメージが立ち上がらないということが、分かりにくさの原因。
・　基本理念は、ある程度あいまいな方がいい。県民が、いろんな思いを描ける方がいい。

【愛顔づくりの方向性（新たな価値観の創造に向けた視点）】

・　震災後のライフスタイルを見直すきっかけに、大都市ではない愛媛ならではのものを組み合わせていくという「愛媛コーディネートの確立」が、非常に有効。

【４つの愛顔づくりへの挑戦】

≪産業≫

・　愛媛県を初めとする瀬戸内地方は、大きなプレート型の地震や津波の被害を相対的に受けにくいという、安全な産業立地の場としてのメリットがあるのではないか。
・　農業において、産出額などの数字だけではなく、明るい芽があるということを裏に持って、ビジョンをつくっていったら良いのでは。
・　人口減少社会に突入する中で、どういうふうに経済的な豊かさを担保するのかということは、非常に難しい問題。
・　価値観の変化とある程度対応させた形でイノベーションというのも、産業界の中で求められなければいけない。
・　観光は、国外からの観光客の誘致を考えると、今回の震災を受けて、長い時間を掛けて取り戻していかなければならないという大きな課題を抱えている。
・　地域の固有の暮らしや自然環境、生活文化、魅力ある人たちを、どう発信していくかということが観光にとって大変重要な取組みのひとつ。
・　県外・国外に愛媛というひとつのアイデンティティやイメージをどのように発信していくか、長い時間を掛けてでも取り組んでいかなければならないと思う。

≪暮らし≫

・　４つの柱のうち、「暮らし」が土台にあると感じた。
・　県民の方々の安全で、安心で、そして生きていきやすい社会基盤・社会の制度に対して、いかに取り組むかが重要。
・　原発の問題として、片方で温暖化の問題があり、新しい産業のスタイル、ライフスタイルを見せてくれるようなビジョンができてきたら良いと思う。
・　世帯数と人口を切り離して考えるのではなく、１世帯当たりの人数を増やすことによって、コミュニティの再生にも繋がるのでは。
・　コミュニティづくりが将来的に福祉の愛媛を作ることになるのでは。
・　南海沖地震が起きたとき、愛媛県がスムーズに対応できる体制が望まれる。
・　都市の景観・快適性について、行政区分や各主体によって、行いがちぐはぐだと、まとまったイメージがおきにくいので、行政としての連帯・連携を強めていただきたい。
・　装飾、騒音といったことも含めての景色、景観が、方向性として入っていくと良い。
・　文化や人づくりの視点を持った地域づくりも大切。

≪人づくり≫

・　子育てや教育は、愛媛の底力、いわゆる長期ビジョンの基盤になると思う。
・　少子化が続くと予測されるが、少子化に対しては、新たな施策の打ちようがあると思うので、高齢化対策とは別次元で考えていく必要がある。
・　教育は学校だけではなく、家庭、地域、社会全体で担うものであることから、いかに多くの人達を巻き込んで、この長期計画を実現していくかが、大きな視点。
・　何をするにしても、携わる者の教育、人づくりが重要。
・　骨子では、主に教育や生涯学習、スポーツが挙げられているが、そういう視点での人づくりよりも、仕事に従事する方や地域を良くすることに従事する方の人づくりという点を少し考慮していただきたい。

≪環境≫

・　愛媛には、様々な人間と自然の闘いと共生の歴史があり、人間と自然の共生を考える場になると考えられるので、地球環境保全への貢献につながっていくと思う。

【推進姿勢】

≪挑戦≫

・　財源的にすごく厳しい状況にある中で、本当に必要なことを、協働事業など、できるだけお金をかけずにマンパワーでやっていかないといけない。
・　財政が厳しい中で、行政でなければできないことを優先的にやっていくべき。

≪連携≫

・　実効性のある計画にするには、策定段階から市町と協力していくことが必要。
・　県民全体の意識改革をやっていく必要があると思う。
・　様々な機関との連携、機関同士の連携が必要。各種機関の経済的な自立を図れるように配慮をお願いしたい。
・　このビジョン・計画を実現するためには、県民一人ひとりがどれだけ当事者意識を持てるかが重要。

【県民への周知】

・　より分かりやすく、メッセージ性のあるものにすることが重要。
・　県民への周知をいかにきちんとするのかが重要で、継続した広報をする必要がある。
・　10 年後に計画を実施することになる次の世代に何らかの形で参加をしてもらうことが必要。

- 県民が計画を見て将来の愛媛県の姿が見えるように、県民一人ひとりが何をすればよいかが少しでも見えるような形になればよいと思う。
- 具体的な県が進めてきた取組みが、県民にうまく伝わってないのでは。
- 県民に情報をいかに伝達して、評価を得るかというところが、チェックの面でも重要。